

道免き谷津遺跡から出土した耳飾りの樹種

能 城 修 一（森林総合研究所木材特性研究領域）

道免き谷津遺跡から出土した耳飾りの樹種を報告する。資料は第3地点(2)から出土した赤漆塗りの耳飾りで、木取りは板目である。

同定のプレパラートは、資料の割れから直接カミソリで横断面と接線断面、放射断面の切片を採取し、ガムクロラール（抱水クロラール50g、アラビアゴム粉末40g、グリセリン20ml、蒸留水50mlの混合物）で封入して作製した。プレパラート番号はCH-3245で、標本は森林総合研究所木材標本庫に保管されている。樹種はトチノキであった。

トチノキ *Aesculus turbinata* Blume ムクロジ科
図X：1a-1c（CH-3245）

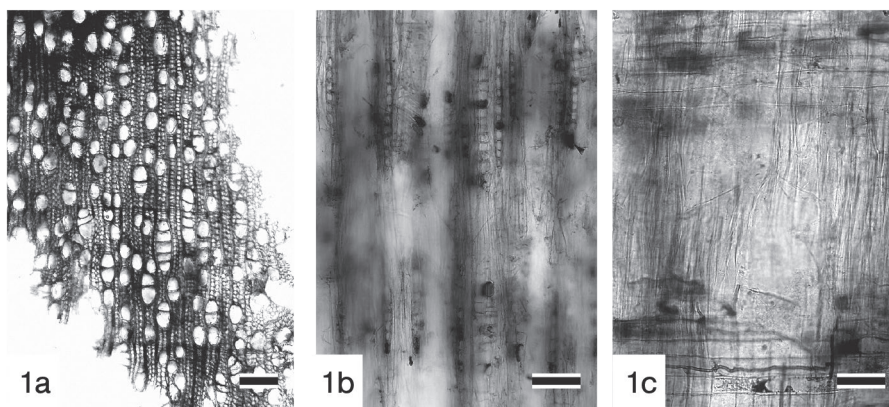
直径60～70μm前後の丸い道管が単独あるいは放射方向に2～4個複合してやや密に散在する散孔材。道管の穿孔は単一。放射組織は単列同性で10細胞高位、層階状に配列する。

縄文時代のトチノキの漆器は、青森県から香川県の10遺跡から82点が出土している（伊東・山田2012を修正）。このうちのほとんどは容器であり、残りは藍胎漆器が1点と、腕輪が6点、櫛が1点である。腕輪は、青森県是川中居遺跡から後・晩期のものが5点と、鳥取県布勢第1遺跡から後・晩期のものが1点出土し

ている。容器類は前期から出土していて、青森県向田(18)遺跡で1点、神奈川県羽根尾貝塚で2点、福井県鳥浜貝塚で38点が報告されている。全体の形態が当遺跡の耳飾りに似る是川中居遺跡の腕輪には、トチノキ5点のほかに、マタタビ属が3点、ニシキギ属が3点、クリが1点、ミズキが1点使われていた（鈴木ほか2002；能城ほか2007）。これらの腕輪は断面がほぼ円形で（八戸市博物館1988；八戸市教育委員会2002）、外側面が抉られている道免き谷津遺跡の耳飾りとは加工が異なる。

引用文献

- 八戸市博物館、編。1988。縄文の美—是川中居遺跡出土品図録第2集—（目で見える八戸の歴史5）。八戸市博物館、八戸。
- 八戸市教育委員会、編。2002。是川中居遺跡1 八戸市内遺跡発掘調査報告書15。八戸市埋蔵文化財調査報告書第91集、八戸市教育委員会。
- 伊東隆夫・山田昌久、編。2012。木の考古学：出土木製品用材データベース。449 pp。海青社、大津。
- 能城修一・鈴木三男・小川とみ・福士明日香。2007。是川遺跡から出土した木製品と自然木の樹種。東奥日報社編「是川遺跡ジャパンロード [漆の道] 報告書2004-2006」、146-175。是川遺跡ジャパンロード調査実行委員会事務局、八戸。
- 鈴木三男・小川とみ・能城修一。2002。是川中居遺跡出土木材の樹種と植物資源利用。「是川中居遺跡1 八戸市内遺跡発掘調査報告書15」、53-66、写真67-69。八戸市埋蔵文化財調査報告書第91集、八戸市教育委員会。



第1図 耳飾り（CH-3245）の木胎の光学顕微鏡写真

トチノキ。1a：横断面（スケール＝200μm）、1b：接線断面（スケール＝100μm）、1c：放射断面（スケール＝50μm）。

